



## JAMCA ニュース

No.96

2018年1月1日

発行  
協会事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会

〒160-0015 東京都新宿区大塚町 31

ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066

〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3

☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

編集事務局

## 自動運転車の幕開けと自動車整備の新たな時代

日産・自動車大学校 学長  
全国自動車大学校・整備専門学校協会 理事

今西 朗夫

2018年、新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎え今年も皆様のますますのご健勝とご繁栄を祈念いたします。今年、我々学校にとっては18歳人口が再び減少傾向に転じる年であり、また、自動車業界においては自動運転車などの新しい段階の新技术が一般市場にお目見えする年でもあり、多くの大きな変化が予想されます。

では、今後来る自動運転車技術を覗いてみたいと思います。

既に最近のクルマは衝突被害軽減ブレーキや車線逸脱防止システムなどは一般的な装備となっており、これらの予防安全装置は国際的にも装着義務化の方向へ議論がなされています。また、駐車支援や自動駐車システム、高速道路での車線・車間維持や前走車追従機能などの高度な技術もどんどん新型車に装備し始めています。これらの複数の装備が複合で機能するケースは自動運転車レベル2と呼ばれ、今年は加速的に普及していくでしょう。

さらに、今年注目されているのは自動運転車レベル3という、ある条件下においては自動車がドライバーに代わって走行することが可能となるクルマが市販されると言われています。この自動運転車レベル3、およびドライバーに頼らない夢の完全

自動運転車レベル4は、走行上の交通トラブルはドライバー側ではなく自動車側に責任があります。

すなわち、機械やシステムが責任を負って走行する時代が間もなくやってきます。そのためには自動運転車の車両技術のみならず、インフラ、通信規格、精密で最新の地図情報、法整備など、多岐に渡った取り組みが必要となります。また自動車整備の世界にも大きな変化をもたらすと考えられます。2016年に警察庁が行った市場調査によると、自動走行システムに対する一般の方々の懸念事項の上位に「故障時に暴走しないか」「正しくメンテナンスできるか」など、自動車整備に関わる点が上げられています。例えば、人が乗って自動運転されているモノの代表にエレベーターがあり多く普及しています。たまに事故でニュースになることがありますが、それでも

我々はさほど不安がらずに乗降しています。このエレベーターの運行には厳しい点検義務があり、月に一度の保守点検や半年から1年ごとの定期点検が課せられています。自動運転による利便は安全を担保するために頻繁な点検により守られていると言え、より積極的な点検整備が無ければ支えていけないと考えられます。クルマが内燃機関から電動化や通信によるモニター技術で一回、一台当たりの整備点検項目が減少していく可能性は高いですが、自動運転車は経年で劣化しても機能が使える限り100%完璧に作動できるよう、今後、点検整備の役割はさらに高まっていくでしょう。我々は、それら新しい技術が完璧に作動することを担う自動車整備士を養成していく必要があります。教える側の責任も重大になっていくでしょう。

今年はますます教育内容の向上を図り、将来の時代に対応できる若者を送り出していきたいと思っています。

## CONTENTS

- |       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 2面    | 多様化する採用環境                        |
| 3面    | クルマ好き!、活躍!!女子!卒業生                |
| 4面・5面 | 東京モーターショーから見る<br>自動車の将来と整備士の位置付け |
| 6面・7面 | 協会トピックス・アイドルタイム・<br>地区通信         |
| 8面    | 私の教材活用・編集後記                      |